

令和 4 年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1 ページ以内に収まるよう作成

団体名	ココロはずむアート展実行委員会		
団体の属性	<input type="checkbox"/> セルフヘルプグループ・当事者等		<input checked="" type="checkbox"/> ボランティアグループ等
	<input type="checkbox"/> 市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般助成	<input type="checkbox"/> 協働モデル助成	協働モデル助成 本会提示テーマ
助成事業名	ココロはずむアート展 PART 1 2		
事業の目的	アートを通じ障害のある子どもと大人のいきいきとした生き方をもっと多くの方に知ってもらう 障害のある方が日々活動している複数の場所で展覧会を行うことにより近所の方に気楽に立ち寄ってもらう		
事業概要	<p>1 2 年前に横浜北部の障害児者支援事業所とともに始めたココロはずむアート展は、参加団体 1 2 団体。参加作家約 1 0 0 名。6 か所の会場を半年かけ巡回し、4 か所の会場は障害のある方が普段通ってくる事業所を展示会場にすることが特徴です。</p> <p>来場者は約 4 0 0 名。絵画や書、織物、粘土の作品展示以外にも障害者自身が講師や報告者となるワークショップ、報告会を行いました。</p> <p>今回初めて、重度重複障害者や強度行動障害のある方の生き様にフューチャーした「これってアートなの？」展も開催しました。</p>		
成果や課題	<p>すっかりおなじみになってきたところはココロはずむアート展。今回も新しい取り組みを行っています。</p> <p>地域の子育て支援拠点が展示会場に加わり、普段障害ということに関りが少ない方々に障害のある方の創作物や素敵な笑顔の写真を見てもらうことが出来ました。</p> <p>ワークショップも、障害のある方を講師として迎え、その創作の仕方を参加者が真似るといった、「まねっこアート」を始めたり、職員が障害のある方の搜索や本人の魅力を語る「作家を語る」と題した報告会は、障害当事者にも語ってもらおうと「作家を語る・作家が語る」に進化しています。</p> <p>「これってアートなの？」展は、今までアート活動となじみが薄いと思われていた重度重複障害者と強度行動障害者の表現について、発信する場を設けたいという職員の思いから始まりました。重度重複障害者の 1 2 点の粘土の連作は、かすかな指先の力やその力強さが、障害のある若者一人一人の個性を如実に表現して壮観でした。</p> <p>「これってアートなの？」展に向けて、実行委員会の中で強度行動障害のある方の作品展示に関し大きな議論がありました。強度行動障害者の日々の行動の長年にわたる痕跡やこだわりの表出である物品、彼らが発する音のバリエーションなど、まさに「これってアートなの？」といえる表出一つ一つに、自傷行為では？強度行動障害者の自分では止められない行為に対する痛みを感じているのか？彼らの家族に日々の苦しみに対する敬意はあるのか？アートとしてすべてを笑い飛ばすといった判断はあまりに軽薄では？といった投げかけでした。それに対する議論を通し、「これってアートなの？」展はその議論をも含め、配慮は行った上でやはり展示をおおうという結論に達しました。深い議論の上で自分たちの仕事を本質的に振り返る機会として、この取り組みの役割は大きいと感じました。</p>		
今後の展望	<p>支援者主体から障害児者自身が主役となるといった流れは継続して深めていきます。</p> <p>子育て支援拠点での展示や「これってアートなの？」展などの新しい取り組みも続けていくことで成果が出てくるでしょう。</p> <p>どんな重い障害があってもアートを生み出す力を内包している、という視点をぶれずに持ち続ければ、固定化された支援する人される人といった関係を解きほぐす可能性をアートが持っていると感じています。</p>		
活動の様子が分かる画像 2 枚程度添付	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>展示@カプカブ竹山</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ワークショップ@COCOON</p> </div> </div>		